

1
2 第2回滋賀県産業振興審議会 会議議事録
3

4 1 日時

5 平成31年3月20日(水)15時00分～17時00分
6

7 2 場所

8 コラボしが21 3階 大会議室(滋賀県大津市打出浜2番1号)
9

10 3 出席委員

11 【委員】安達 みのり委員、飯田 敏之委員、大日 常男委員、上村 透委員、
12 小玉 恵委員、西藤 崇浩委員、島 裕委員、田口 一江委員、
13 田中 美咲委員、辻田 素子委員、夏原 行平委員、平尾 道雄委員、
14 廣川 能嗣委員、松井ライディ貴子委員

15 (18名中14名出席)

16 【オブザーバー】滋賀経済団体連合会(4団体)、公益財団法人滋賀県産業支援プラザ、
17 滋賀県市長会、日本労働組合総連合会滋賀県連合会

18 【県】三日月知事、江島商工観光労働部長、辻井商工観光労働部理事、他関係職員
19

20 ※ 敬称略、五十音順
21

22 4 内容

23 ■開会

24 (1) 知事あいさつ

- 25 ・皆さまこんにちは。年度末のそれぞれお忙しい中、お集りいただき、御礼申し上げます。
26 ・前回、次回はフルタイムで参加させていただくとお話し、今回、実現できそうである。
27 ・皆様のお話をたくさん伺いたいので、あいさつは省略させていただきます。
28

29 ■議題

30 (1) 第1回滋賀県産業振興審議会のポイントについて

31 (資料2に基づき事務局から説明)
32

33 (2) 本県経済・産業の分析について

34 (資料3に基づき事務局から説明)
35

36 (3) 委員からの補足説明について

1 (会長)

2 ・「議題3 委員からの補足説明について」、前回の審議会で委員からのプレゼンテーションを募集し、事務局で調整したところ、会議を途中で中座されることもあり、夏原委員に御発言いただくことになった。

3
4
5 ・本県経済・産業の状況をどうみているか、これからどう動くとみているのか、自社の戦略に絡めて御紹介いただきたい。

6
7
8 (夏原委員)

9 ・弊社で取り組んでいる方向性についてお話させていただく。

10 ・前回の会議でも少し触れさせていただいたが、弊社では従来のように単に物を仕入れて販売するというだけでなく、今後は地域の社会課題にも積極的に取り組み、平和堂ならではの地域密着ライフスタイル総合（創造）企業を志向していこうと考えている。

11
12
13 ・もともと、滋賀県の企業であることから、三方よしの精神を企業理念に置いて取り組んできたが、近年、CSV 経営やSDGs の考え方が浸透してきている中で、弊社としても今まで以上に地域の社会課題解決に貢献し、地域インフラの一つとして認めてもらえるところまで取り組んでいきたい。

14
15
16
17 ・そうした中で、滋賀県の様々な社会課題を整理し、平和堂の本業に合うもの、合わないが地域と連携して解決に向けて取り組めるものを整理し、本年度から事業の具体化に向けて取り組んでいる。

18
19
20 ・地域の課題としては人口減少、高齢者増、域外への流出、後継者不足による生産能力の低下、雇用需要・供給のアンマッチ等があり、特に少子高齢化、人口減少が一番の課題である。

21
22
23 ・滋賀県は平均寿命が日本一であるが、寿命が延びても健康でなければ幸せな生活はできない。では、どのような形で健康づくりを支援、促進していくのか。

24
25 ・また、人口が減少する中で第一次産業の廃業防止に向けてどのような支援ができるのか。

26
27 ・本年度、平和堂グループが地域インフラとなるために地域共創の主要施策を①地域住民の生活、②地域産業の振興、③地域の魅力発信の3つの切り口で分類し、ここから5つの事業に絞って具体化していこうと考えている。

28
29 ・1つ目は地域マネー/地域ポイント（決済）事業である。

30
31 ・キャッシュレス化が進んでいる中で、弊社には県内で約95万人のカード会員がおられる。この会員がお持ちのHOPポイントをHOPマネーとして地域の企業でも使用できるようにし、域内でお金が回るような仕組みを検討している。

32
33 ・2つ目は健康サポート事業である。各店舗にご来店いただいている高齢者の健康状態を診断し、健康促進・維持に向けたサポートができないか考えている。

34
35 ・3つ目は子育てサポート事業である。地域の託児所が足りないこともあるが、アンケートを取ると、小学校が終わった後、親が仕事から帰宅するまで、安心して子供を預けられ、

1 勉強をさせられる場所が少ないとの声がある。また、送り迎えにかかる親の時間的負担も
2 あり、こうしたところをどう支援できるか考えている。

3 ・4つ目は一次産業振興支援事業である。とくに農業、畜産業は我々の本業であるスーパ
4 ーとしての安定的な物量の確保の視点からも、事業継続のためにどのような支援ができる
5 のか、自らやっていくことも含めて考えている。

6 ・最後は地域イベント・クラウドファンディングである。地域を活性化するための様々
7 なイベントを支援し、クラウドファンディングを通して資金を集める。我々としては人
8 的支援や場所の提供を通じて地域の活性化に貢献したいと考えている。

9 ・このように地域密着のライフスタイル総合（創造）企業を志向し、従来の小売りの枠を
10 超えて、地域活性を地域とともに創造する、地域共創という考えをもって地域に貢献して
11 いく。

12 ・簡単ではあるが、以上とさせていただく。

13 （会長）

14 ・現在のビジネスから、地域課題をどうビジネスにつなげるかというお話であったと思う。

16 （4）滋賀県産業振興ビジョンの改定に向けた論点整理について

17 （資料4に基づき事務局から説明）

19 （会長）

20 ・それでは、論点整理に関する意見交換、議論の時間としたい。ついては、論点ごとに皆
21 様からご意見、ご質問を頂戴し、議論を進めてまいりたい。

23 ●論点1 どんなビジョンをつくるのか

24 （会長）

25 ・資料4の5ページにも記載のあったとおり、企業等のビジョンを参考に作成してはど
26 うかと事務局では考えているところ。

27 ・西藤委員の滋賀銀行では、最近「第7次中期経営計画」を策定されたと聞いている。ど
28 ういうところを意識して作られたか、また、工夫されたかお話いただければと思う。

29 （西藤委員）

30 ・先月22日に、5年間を計画期間とする第七次中期経営計画を策定した。考え方、骨子に
31 ついて説明させていただく。

32 ・2ページには、地域の課題を簡潔にまとめている。

33 ・地域の課題として、人口減少、名目GDPの減少、いわゆる経済の規模も減少が予想され
34 る。

35 ・シェア拡大型では持続可能性がないと認識している。

36 ・それでは、我々は何をやるべきか。地域の課題と向き合って課題を解決し、将来にわた

1 　　って地域経済を持続させることと考えている。

2 　　・図では、過去、現在、未来と示している。放っておいたら、右肩下がりになる。これを

3 　　社会課題の解決により、維持向上させる。「地域の縮小角度を変える」ことが地方銀行の使

4 　　命であると考えている。その鍵になるのが、SDGs。我々の活動が SDGs では日本の最先端と

5 　　なる意気込みで取り組みたい。

6 　　・4ページには、目指すべき姿と中期経営計画の関係を示している。今までは、現状を分

7 　　析してそこから改善策を積み上げる、いわゆるフォアキャストイングであった。常に右肩

8 　　上がりで成長できる時代はこの手法でよかった。今後、右肩上がりでなく、人口減少・少

9 　　子高齢化、加えて、地球温暖化、資源不足も見込まれる。

10 　　・当行が長期的に目指すべき姿、サステナビリティビジョンからさかのぼって、バックキ

11 　　ャスティングをして、取り組むべき課題を洗い出して第七次中期経営計画を策定している。

12 　　・お客様や社会基点に軸足を置き、個人、企業がどのようにありたいか、それを共有しな

13 　　がら取組を支援していく。

14 　　・3ページには、サステナビリティビジョンを示している。緑の部分は不変の精神、行是

15 　　とあるが企業では社是に相当する。CSR 憲章は、共存共栄の状態である。

16 　　・目指すべき地域社会の姿を、「自分らしく未来を描き、誰もが幸せに暮らせる社会 ～地

17 　　域との共創による持続可能な社会の実現～」とした。

18 　　・長期ビジョンでは、2030 年をターゲットとし、マイルストーンとして3つの数値目標、

19 　　「地域経済の創造」、「地球環境の持続性」、「多様な人材の育成」の目標を掲げている。

20 　　・5ページは、今回の計画の概要になる。

21 　　・2030 年を見据えて、求める銀行像を Sustainability Design Company（サステナビリテ

22 　　ィデザインカンパニー）と位置付けている。メインテーマは、「未来を描き、夢をかなえる

23 　　～お客様・地域社会・役職員の未来をともに～」とした。

24 　　・ここで、Bank でなく Company としたのは、従来の枠組みを超え、未来志向の企業へ進化

25 　　しようという強い意志を込めてあえて Company とした。

26 　　・課題解決型金融情報サービス業への進化として、とくに SDGs をビジネスとしてお取引様

27 　　や地域に広く展開し、地域社会の生産性向上を図り、メインテーマの「未来を描き、夢を

28 　　かなえる」ことにつなげてまいりたい。

29 　　（会長）

30 　　・皆様からご意見を伺いたいがどうか。

31 　　・A委員はどうか。

32 　　（A委員）

33 　　・我々も5年計画はある。

34 　　・ビジョンと別にアクション計画はあるのか。

35 　　（西藤委員）

36 　　・本来、3年の中期経営計画を持っていたが、もう少し、長期に視点を置き、2030 年から

1 バックキャストイングしたこと、また、そういった考え方をしっかり持ったうえで、具体的にこれからどのような行動、どのような目標をもって取り組むか落とし込んだ。

3 (B委員)

4 ・企業のビジョンは、参考にとどめておくべき。

5 ・企業と地域・自治体は別物である。

6 ・企業はトップダウンでよいこともあるが、地域・自治体は、どれだけ県民が共感でき、
7 自分ごと化できるかが重要である。そうした視点からは、現在予定されているパブリック
8 コメントの実施期間は1か月と期間を設けるだけでなく、県民や民間の企業等からどれだけ
9 意見や想いを聴くことができるか、そしてみんなで決めることが重要であると思っている。
10

11 ・私は、非営利団体とスタートアップ両方の事業に取り組んでいるが、どちらも社会課題
12 解決型の事業であるということもあり、私の事業で言えば被災された方々、当事者の意見を
13 どれだけ聞くことができたかが重要なポイントであったからこそ、共感していただけた
14 と思っている。

15 ・そうした経験があるからこそ、お上が決めたからやるというビジョンでなく、自分たち
16 が決めた、自分たちの滋賀のビジョンだから、自分たちがアクションするという構図にな
17 ればよいと思う。

18 (会長)

19 ・C委員いかがか。

20 (C委員)

21 ・B委員がおっしゃったように、企業としてはよいが、県民がどれだけ理解して、どれだ
22 け共感できるか。ちょっと難しいのではという印象を受けた。

23 (会長)

24 ・県民がすべて共感できるか、それに向かって力を合わせられるかという形で取りまとめ
25 ていくということであると思う。

26 ・また、今までのビジョンは、言葉の羅列も多く、県民が読み込むことも正直難しかった
27 のではないかと思う。

28 ・絵で示されると、案外わかりやすく、それに書き込んでいくとわかりやすいと思う。

29 (副会長)

30 ・2030年、どんな姿かわからない。SDGsを勉強しているなら少しはわかるが。SDGsをなん
31 とかやりこなした世の中か。

32 ・SDGsのこの姿がイメージできないとわかりにくいのではないか。資料には具体性が欠け
33 ている。SDGsの達成した姿がポイントか。

34 (会長)

35 ・2030年の滋賀のあるべき姿を考える。その考え方のベースにあるのはSDGsという発言で
36 あったと思う。

- 1 ・できれば、バックキャスティングで年度ごとに落とし込んでいく。戦略的に考えていく
2 ことができればと思う。
- 3 ・そういった中で論点1を考えていきたい。
- 4
- 5 ●論点2 「産業」の捉え方
6 (会長)
- 7 ・次に、「論点2 「産業」の捉え方」である。
- 8 ・D委員は、前回、「産業振興の中に農業、林業を取り入れてもらいたい。」と発言された
9 が、資料をご覧になられてどのように捉えられたか。
- 10 ・また、例えば、行政では分野ごとに計画を作成するのが通例であるが、どのように工夫
11 されているか、あるいは、どのように融合して施策を構築すべきと考えるか。
- 12 (D委員)
- 13 ・少し戻るが、SDGs、滋賀銀行さんの資料の「自分らしく未来を描き、誰もが幸せに暮ら
14 せる社会 ～地域との共創による持続可能な社会の実現～」。もう少しよくわからない。
- 15 ・その上で、前回、農業、林業が基本的な産業としてしっかりと根付く。再生する、それ
16 にもたれられる社会にしなければ持続性がないと思っている。
- 17 ・第一次産業として、生業として暮らしていけることにこだわる。この観点が目指すべき
18 社会として合意が形成できるか。
- 19 ・戦後、工業、技術等で産業のあり方をみてきた。
- 20 ・土、水、森といったことに依拠して人は暮らしている。そのことが大切にされる滋賀。
21 そこで、人間らしい暮らしと未来が生まれてくる。教育も産業もそこに向かっていると思
22 っている。
- 23 ・IoT、AI でいうと、農業は新しい分野に挑戦している。
- 24 ・環境や働き方の問題を含め、そこから何か始まっているのではないか。
- 25 ・昭和に戻るのではなく、今の時代をどう総括して、新しい知恵、技術をどう活かせるか、
26 産業に活用できるか。
- 27 ・うまく表現できないが、そういったところに目指すべき社会、あるべき産業があるので
28 はないかと思う。
- 29 (会長)
- 30 ・滋賀の持っている魅力や自然、そういったものをしっかり踏まえて将来を考える。それ
31 をいかに新しいステージに上げるために、IoT、AI を活かすといったご意見であったと思う。
- 32 ・E委員いかがか。
- 33 (E委員)
- 34 ・企業に勤めるものとして、滋賀で暮らすものとして、どういったビジョンがあったらよ
35 いか考えてきた。
- 36 ・先日、滋賀県に来県されたデンマークの方とお話した。幸福度が世界一であるが、そ

- 1 のベースは、地域との信頼関係がベースとのことであった。
- 2 ・会社に戻り、会社にも計画があるが、私たち企業が何をやるべきか考えた。
- 3 ・基本的な、食べることを持続させることに取り組むべきと考えた。
- 4 ・滋賀のビジョン、幸福のベースは、食べること、暮らすこと、学ぶことの3つにつ
- 5 と考える。
- 6 ・ビジョンは、勉強されている方は難しい言葉はわかるが、誰でもわかるような、わかり
- 7 やすい言葉で、食べること、暮らすこと、学ぶことの幸福感をベースに、分野ごとにビジ
- 8 ョンがあってもよいのではないかと考えた。
- 9 ・また、見せるツールや企業の方にご意見を聞くところにも、策定と同じぐらいの労力を
- 10 割いて、県民の参加型で策定していくべきではないかと感じた。
- 11 (F委員)
- 12 ・E委員の意見に共感する。
- 13 ・先週、フランスのボルドーや、スペインのサンセバスティアンを訪問した。
- 14 ・とくにボルドーは、ワイン製造のための第一次産業があり、博物館などワインの文化が
- 15 ある。観光業、宿泊業がワインといった一つのキーワードでつながっていた。農商工連携
- 16 や農業を補助金で支援といった施策ではなく、ワインといった1つの大きなくくりの中で
- 17 産業が発展できないか、そういう仕組みができないかと感じた。
- 18 ・ワインの博物館は大きく、モダンな建築物を有名建築家が設計されているが、入ってみ
- 19 るとAIが活用され、個人にレシーバーが渡される。20か国語に対応しており、ワイナリー
- 20 のインタビューなどを聞くことができる。その後、近郊のワイナリーに観光に行き、ホテル
- 21 周辺のレストランで食べる。大きな動きがあり、いろんな産業が発展する。
- 22 ・県だからこそできる仕組みができないか。水関連、食関連を起点にできないか。
- 23 ・また、計画を県民の方々と一緒につくり上げていく、まさに重要な点である。
- 24 ・滋賀銀行の計画でも、若手行員が参画し、まとまった。
- 25 ・県でも、県民の方々の意見が入っていることが見えた方がよい。
- 26 (G委員)
- 27 ・論点の2つを聞いて意見を申し上げると、ビジョンの形は、どういう風に示すかの一例
- 28 として企業のものでできた。
- 29 ・役所の計画は分厚くて読むのが大変であり、県民の心に落ち込んでいるかという今まで
- 30 の反省点。その後ろにある、それぞれの部署に落ちるようなものは県各部局で作られれば
- 31 よい。
- 32 ・わかりやすい、コンパクトなもの、概要版のようなものを作成するのに注力するのは賛
- 33 成である。
- 34 ・産業は、一つ一つが対立してあるわけではない。地方創生でも、農地も含めて決して産
- 35 業が対立しているものではない。それぞれが出口を求めているわけではなく、密接に絡み
- 36 合って、ウインウインの関係であり、そういったビジョンであってほしい。

1 ・7ページの資料の右側、いいスパイラルで成長できないか。
2 ・産業の捉え方は、今までの第一次産業、第二次産業、第三次産業といった学術的な捉え
3 方でなく、また、国の所管でなく、それを超えた滋賀なりのモデルができると素晴らしい
4 と思う。
5 (H委員)
6 ・7ページの資料の右側のポイント3、産業・企業・人がつながる仕組みづくりについて
7 であるが、私は、出産・子育てで一旦離職し、一步踏みこめない女性の支援をしている。
8 チャレンジすることに不安を抱えている女性が多い。
9 ・そこに、行政、企業がつながる、いろいろな立場の方が支え合う仕組みづくりができれば
10 ばと思っている。
11 ・京都では京都経済センターができたと聞いている。起業、開業したいを様々な団体がサ
12 ポートする仕組みが必要であり、京都リサーチパークもそうしたところだと聞いており、
13 密接に絡み合う仕組みづくりができないかと思っている。
14 (会長)
15 ・ここまでの論点1、2について、知事の方から何かあるか。
16 (知事)
17 ・より多くの方の共感が得られるビジョンづくりは、そうしてまいりたい。
18 ・パブリックコメントは、行政は1か月と決まっているわけではないのに書いてしまう。
19 こういうこともどうするかよく考えたい。
20 ・産業の捉え方や括り方、旧来型の商工観光労働部が所管する産業でなく、むしろテーマ
21 ずつくって表現して、そこにはモノづくりが関わり、AIやIoTを使えばうまくいく、そう
22 いうテーマで捉えた振興ビジョンがつかれないか、ご意見を聞きながらそういったことを
23 考えていた。
24 ・次のビジョンには、ステップアップ、スキルアップ、ネットワークづくり、そういうチ
25 ャレンジしたい人を応援する・呼び込む、そういう仕組みやメニューが入れられればいい
26 と思う。
27 ・現行のビジョンは、振興を図るべき産業から入っているが、後の議論のポイントである
28 が、産業を支えるべき要素・側面からのアプローチを志向したいと考えているところ。
29 ・この点、これからご議論いただくが、様々なご示唆をいただきたい。
30 (会長)
31 ・産業の捉え方は、いろんなところがマージ(融合)してきている。第一次産業、第二次
32 産業、第三次産業で整理するものではない。テーマごとに整理しすべてが関わり、お酒を
33 中心に陶器であったり、鮎ずしであったりといった整理は見やすく、自分がどこに関わっ
34 ているかわかりやすい。
35 ・滋賀のあるべき姿をそういう風に議論できないかと感じた。
36

1 ●論点3 ビジョンの期間および 論点4 基本理念・目指す姿
2 (会長)
3 ・次に、「論点3 ビジョンの期間」および「論点4 基本理念・目指す姿」は、相互に関
4 係があるため、一括で議論したい。
5 ・まず、企業経営者のお立場からご意見を伺いたいが、I委員は、御社の企業理念等から、
6 ビジョンの期間および基本理念・目指す姿をどのように考えるか。
7 (I委員)
8 ・企業理念は、創業以来一切変わっていない。変えるものではないと思っている。
9 ・計画期間は、数字は3年であるが、戦略・構想は10年単位で行っている。今年40周年、
10 次50周年は2029年となり、2029年に我々はどうなっているかで考えている。
11 ・企業理念、ビジョンは不変であり、そうしたものではないかと思っているが、それはも
12 しかしたら、会社が順調に来ているからかもしれない。どこか、うまくいかないところが
13 あれば変えるかもしれない。
14 ・滋賀県のビジョンは、10年と言わず、何年も変えなくてもいいようなビジョンがつけ
15 るといい。「滋賀県といえばこうである」と謳えればよいと考える。
16 (A委員)
17 ・理念、社是は不変だと思う。
18 ・その中に、方針というようなものは、そのときどき、時代において、ビジョンと理念の
19 間が出てきているのも事実である。
20 ・戦略経営計画の期間は5年刻み。数値目標等は見直しが前提となっている。方向性につ
21 いても同様である。
22 ・2030年、10年の期間は適当ではないかと考える。
23 (会長)
24 ・期間は、2030年を目指す姿、現行のビジョンは2024年であるが、2030年を目指す形で
25 基本構想と整合させていく方向かなと思う。
26 (知事)
27 ・ここは少し申し上げたい。
28 ・10ページ、2030年にどうありたいか。みんなで目指す2030年の姿を目指す、持続可能
29 な滋賀。
30 ・11ページ、人が真ん中にいて中心であるが、経済の土台があり、その土台である社会、
31 さらにその土台である環境があり、環境を汚さずに壊さずに次世代に引き継いでいきたい。
32 生きていくためには一人で生きていけず、食べて、生産活動を営む。それを社会で支え合
33 う、学び合うことを応援できるような仕組みづくりができないか。
34 ・ただ、従来型の経済モデルであると、よそから安いものを買ってきて、付加価値をつけ
35 て売って儲ける。そのよそからの安いものが、実は環境を壊したり取り尽くしたり、児童
36 労働に頼ってしまっていたり、それではいけないのではないかと。

- 1 ・滋賀は、そういったことをせずに、調和の取れた持続可能な社会を構築したい。
- 2 ・そのためには、変わらなければならない、変わる必要がある。例えば、男性中心、モデル
- 3 ル世帯を中心とした経済モデルでなく、変わることで幸せを続けていく、みんなが幸せを
- 4 享受できる滋賀、そういう滋賀をつくろうというのが「Evolving SHIGA」に込めた思い。
- 5 ・その考え方を県政の最上位の計画である基本構想に入れている。したがって、本日御提
- 6 示させていただいている資料は、ビジョンはそういう基本構想に基づく産業振興ビジョン
- 7 にしたいというもの。
- 8 ・ぜひ、産業の分野でも、物事を変えること、変わることで幸せや豊かさを享受できない
- 9 か。だから、そのことを基本理念に据えてはどうかと思っている。
- 10 ・やはり、SDGs は我々も達成したいと思っている。目標年次は 2030 年度をターゲットイヤ
- 11 ーとしてよいのではないかいと思い、提示している。
- 12 (I 委員)
- 13 ・考え方は私もそう思う。
- 14 ・ここで、あえて企業人として意見をいう。
- 15 ・「産業」とは何なのか。
- 16 ・「産業」をビジネスと捉えると、ビジネスは、続けていかないと、うまく回らないと破綻
- 17 が来る。綺麗ごとばかりではいかない。
- 18 ・私は、産業を違う視点で分類している。
- 19 ①滋賀県を市場としてみる産業
- 20 ②滋賀県を拠点として海外に出る産業
- 21 は違うと思っている。
- 22 ・我々は①は市場ではなく、②である。滋賀銀行や平和堂さんは①が市場である。
- 23 ・そうしたときに、農業、林業をどっちでみるか。
- 24 ・県外、海外でビジネスをすると捉えるのか、また、県内で部局をまたいで、第一次産業、
- 25 第二次産業、第三次産業がうまくつながり、滋賀でビジネスをするのか。ここをどう捉え
- 26 るかで、産業振興の仕方がまったく変わってくると思われる。
- 27 ・先ほど、ボルドーの話があったが、世界で名だたるワインを滋賀からつくるのか、新潟
- 28 に勝てる米や松坂牛に勝てる牛をつくるのか、滋賀でビジネスをするのか、滋賀県内で回
- 29 る仕組みをつくるのか。
- 30 ・極端に申し上げたが、どちらかでうまく回るのか変わる。続けられないと意味がない。
- 31 ・その辺をもう少し考えて、崇高な議論ばかりでなく、産業が回る仕組みづくり、考え方・
- 32 ビジョンというより、具体策として考えていく必要があるのではないか。
- 33 (会長)
- 34 ・ビジョンをつくって、それを戦略、戦術として持続可能をどう補足していくことと思わ
- 35 れる。
- 36 (副会長)

1 ・だからこそ、新潟に負けないような米をつくる、先ほどのワインをつくる、そういった
2 ことに取り組むプラットフォームをつくるのが行政の仕事である。それをしやすいように、
3 琵琶湖の水を綺麗にする、農業を豊かにする、そういうベースを行うのが行政の仕事。働
4 きやすい、女性が働きやすい環境づくりである。

5 ・SDGs の貧困は、滋賀にもある。少子化もあり、母子家庭もある。

6 ・フランスは第二子の税金を半分にしているが、それは国の仕事である。

7 ・世界に出やすいように、県内で産業が栄えるようにプラットフォームをつくるのが行政
8 の仕事である。

9 ・先々週、イスラエルに行ったが、イスラエルにはイノベーション庁がある。そこでは、
10 新規事業に取り組む場合、補助事業であっても、失敗は絶対に許す文化がある。それはお
11 金が回っているからよいという考え方である。日本は失敗を許さない、狭い考え方がある。

12 ・滋賀県でも医療機器開発に取り組んだが、京都、大阪、神戸に任せとなる。

13 ・行政は、我々企業が仕事をしやすい、個人が働きやすい、結婚しても子どもを産んでも
14 育てやすい、そういった県全域のプラットフォームづくりではないか。農業、林業、水産
15 業含めてすべての産業がやりやすいようにと思われる。

16 (会長)

17 ・期間は、2030 年を目指す。

18 ・基本理念、目指すべき姿は、行政があるべき役割を認識して、あるべき姿を描く。

19 ・いかにベースをつくるか、野球場でいかにプレーヤーがのびのびと楽しくプレイできる
20 かというイメージである。

22 ●論点5 産業振興の基本的方向

23 (会長)

24 ・次に、「論点5 産業振興の基本的方向」である。

25 ・B委員は、前回、「現行ビジョンは全体的にすべてをよくしようという印象を受けた。ま
26 た、起業・創業といった観点からは、チャレンジしづらい。」と発言されたが、産業振興の
27 基本的方向をどのように考えるか。

28 (B委員)

29 ・ソーシャルスタートアップは、環境が悪かろうと起業はする。

30 ・既存の仕組みは、既存の企業、産業のためにあると感じることは多々ある。今あるスタ
31 ートアップによい仕組みがあると感じたことはないのが事実である。

32 ・それを助けてくれるのは、企業がやっているアクセラレータプログラム等、自治体以外
33 が企画しているところがサポートしてくれている。

34 ・商工会議所や自治体の補助金、助成金はスタートアップにマッチしないことが多い。そ
35 ういった人もいることを知った上で設計し直す、そういったことを行政も行い、時代に合
36 わせて変えていくことが必要ではないか。

1 (J 委員)

- 2 ・行政の役割はプラットフォームづくりということは、まさにそのとおりと思う。
- 3 ・論点5で、特定の業種でなく、環境を整備する、側面から支援するはまさにそのとおり。
- 4 ・産業の捉え方に戻るが、政策は、ベン図のとおり産業にぶら下がっており使い勝手が悪
- 5 い。内閣府、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）等、分野横断的に取り組むものも
- 6 ある。
- 7 ・ビジョンのテリトリー、役割として、7ページの右の緑で覆っているベン図、これは事
- 8 務局のアイデアかと思うが、むしろ、いろいろな形でチャレンジができる裾野がある図と
- 9 してつくっているのではないか。
- 10 ・もしかしたら、それは経済価値につながらないかもしれないが、そこに参加することが
- 11 できる、人とつながりができる、あるいは感謝される、それは地域を元気にする大切な要
- 12 素であると思われる。
- 13 ・産業は、外貨を稼ぐ、経済循環を行うことも大切であるが、県全体のビジョンとしては
- 14 裾野をつくっていく、非経済価値も経済価値につながる。また、そこから NPO の活動と企
- 15 業がつながり、ヒントを得て新たなサービスなどをつくっていく。
- 16 ・先ほど知事も申し上げられたが、ネットワーク、チャレンジ、滋賀を舞台に活動する、
- 17 あるいはみんなが巻き込まれていく、まさにこれがインクルーシブであり、また、SDGs の
- 18 モチーフとしてテーマとして、ソーシャルベンチャーから大企業のテクノロジーの開発ま
- 19 で、幅広くいろいろな物事が動いていく。
- 20 ・14ページの資料は、そのための産業を支える要素・側面である。産業は広い概念であり、
- 21 柔軟な制度設計、そこから右側の様々な産業が生み出されていく。
- 22 ・また、資料3であるが、滋賀県の産業構造は、他県と比べて非常にバランスが取れてい
- 23 るのではないか。第二次産業に偏っているわけでもなく、第一次産業から第三次産業まで
- 24 バランスの良さを感じる。
- 25 ・そのバランスの良さを生かしていく。いろんな情報がこの地域に集まる、活動するなら
- 26 滋賀がやりやすい、コミュニティやエコシステムを構築していくことが、産業振興の次の
- 27 ステージで求められるのではないか。

28 (F 委員)

- 29 ・J 委員のおっしゃられたことと同感である。この10年間、関係者が活動する中で連携し
- 30 ていく仕組みが構築できればと思う。
- 31 ・先ほどの京都経済センターでの様々な会議に携わらせてもらっている。
- 32 ・10年間取り組んできたファンド等による中小企業支援では、京都府・京都市などの自治
- 33 体、京都中央信用金庫・京都信用金庫・京都北都信用金庫などの金融機関、NPO 等とともに
- 34 産官金でファンドを運営し、支援を行ってきた。
- 35 ・企業が育ったことも良かったが、1社が新しく立ち上がると業種の枠を超えて、みんな
- 36 でサポートし合う仕組みができたことが一番良かったと言っている。10年間やり続けると

- 1 信頼関係もでき、仕組みとして成り立ってくる。
- 2 ・ビジョンで11年が終わったとき、やり続けてきて人間関係もでき、みんなで応援する
- 3 体制もでき、本当に良かったといえるような、結果が出るとよいと思う。
- 4 (C委員)
- 5 ・米原市に住み、上丹生の木工作家の海外向けの発信や、米原を拠点に米原向けのインバ
- 6 ウンドに取り組んでいる。
- 7 ・基本理念、変わる滋賀は、県内の人と共有するものとして理解した。
- 8 ・加えると、外の人に向けて発信する、私はミシガン州に住んでいたが、キャッチフレー
- 9 ズ、ニックネームがあり、グレートレイクスステイトである。
- 10 ・外に向けたキャッチフレーズがあるとわかりやすく、イメージが湧きやすい。その中心
- 11 が琵琶湖であると思う。
- 12 ・産業や交通をはじめ、琵琶湖を回って形成されている。外に向けた発信のキーワードが
- 13 必要ではないか。
- 14 ・地の利、水の利とあるが、滋賀県は、全国の真ん中にあり、拠点と思っている。
- 15 ・拠点は滋賀県だけでなく、米原からなら、北陸も行けるし、いろんなところに行ける。
- 16 ・滋賀県だけで完結してしまうこともよくなく、日本の真ん中にあることもPRし、京都や
- 17 名古屋などと連携した仕組みができればと思う。
- 18 (会長)
- 19 ・滋賀県の中だけで考えるのか、外に向かってビジョンをどう書くのか、あるいは外から
- 20 考えるのかということであるかと思う。
- 21
- 22 ●まとめ
- 23 (会長)
- 24 ・本日の議論を聞かれて、副会長のお立場から、全体を通してのコメントをいただきたい。
- 25 (副会長)
- 26 ・企業家として、理念は変えない。何のためにその会社があるのかが理念である。方針は、
- 27 2、3年の間にあることに対応して変化する。
- 28 ・では、滋賀は何のためにあるか。産業は、県民のためにある。ビジョンは協働してつく
- 29 る。
- 30 ・行政は、企業が仕事がしやすい、できるベースをつくる。働きやすい環境の整備や保育
- 31 所の整備等を進める。
- 32 ・家族が幸せ、社員も幸せ、教育も含めてである。
- 33 ・ワインそのものをつくるのは民の力であり、農業もそうである。そのための仕組みづく
- 34 り、産業支援プラザや工業技術総合センターのような技術援助、茶業の研究所もある。今
- 35 後も引き続き、それぞれの産業で頑張る人への援助をもっと考えるのが行政の仕事ではな
- 36 いか。

- 1 ・今申し上げたことは、滋賀県における SDGs をしっかりとやればできると思われる。
2 ・経済団体も SDGs をやる。滋賀県にあてはめていろいろとできる、それをビジネスにつな
3 げられないか。国連や日本のことでなく、他人事でなく、わが社が、農家の方もできるの
4 ではないか。農業指導も海外で行ってきているが、企業ではツジコーもアジアに出てビジ
5 ネスで取り組んでいる。サステナビリティである。
6 ・企業は儲ける、行政は生活、暮らしである。
7 ・2030 年の SDGs を中心とした理念を具体化できないかと思われる。
8 ・また、15 ページは、私は非常に関心があるが、これらはすべて、経営の範疇にあり、経
9 営に活かしていくべき事項である。
10 ・我々は、産学官連携で滋賀医科大学等大学と連携して取り組んでおり、地域のイノベー
11 ションも今後の課題である。
12 ・国、県は税金を補助金として交付し、リードしようとする。予算の中で必要であるが、
13 我々の企業人の発想が可能なような社会づくりが大切。
14 ・GAF A (Google、Amazon、Facebook、Apple) は補助金で生まれてきていない。創業者の知
15 恵である。国は関与していない。
16 ・行政は、企業等がビジネスしやすい、仕組みづくりの構築が本業と思う。

17

18 ●オブザーバー

19 (会長)

- 20 ・オブザーバーからもご意見をいただければと思うがいかがか。

21 (滋賀経済同友会)

- 22 ・副会長もおっしゃられたが、行政や企業が考えていくために、みんなが豊かにどう感じ
23 るかをもう少し明確にしていく必要があると思われる。

- 24 ・企業が地域にどう豊かさを与えるか。行政も同様である。

- 25 ・今回のビジョンでは豊かさが見えないところがある。

- 26 ・資料をみると豊かさが入っていない。ビジョン、政策に豊かさが入っておらず、その辺
27 が入ると、新たな形が生まれるのではないか。

28 (会長)

- 29 ・知事、最後にいかがか。

30 (知事)

- 31 ・2・3、感想とともに決意を申し上げたい。

- 32 ・I 委員がおっしゃった、滋賀を市場としてみるか、拠点としてみるか。

- 33 ・私は、滋賀を市場とみると人口規模は 141 万人であり明らかに小さい。滋賀は拠点であ
34 り、滋賀の産業が世界を市場に、世界を相手に産業を営んでいくことを志向したい。

- 35 ・2 点目、前回も申し上げたが、私は「産業」という捉え方にこだわる。従来型の商工業、
36 観光業でない、滋賀の産業。何をどう生むか、どう価値を付け加えるか。滋賀で生むもの

- 1 は少し異なる、幸せを生む、新たな価値を生んでいきたい。
- 2 ・3点目、ビジョンで書けること、行政ができることはあまりなく、たくさん書きたくは
- 3 ない。あれもこれもではない。エコシステム、コミュニティづくり、ネットワークづくり、
- 4 チャレンジ支援、そういったことがベースになると思われる。
- 5 ・最後に、現行のビジョンは総花的であり、今申し上げたことは現行のビジョンにも一定
- 6 書いているが、いろいろ書きすぎてよくわからない。
- 7 ・現行のビジョンの改定であり、今のビジョンから、捨てるもの、伸ばすもの、書き換え
- 8 るものも一定整理していきたい。
- 9 ・いただいたご意見を踏まえ、事務局ともよく議論しながら、次回に一定のたたき台を示
- 10 していきたい。
- 11 ・今日、限られた時間でいただけなかったご意見、ご示唆を加えていただければと思う。
- 12 (会長)
- 13 ・2030年の滋賀のあるべき姿をしっかりと描き、それをどういう風に構築するか、そのため
- 14 のベース、滋賀の体力をどう鍛えていくかがポイントであると思う。
- 15
- 16 (5) その他
- 17 (事務局)
- 18 ・先ほど、説明させていただいたとおり、次回の会議は5月29日(水)午後3時から午後
- 19 5時まで、長浜市内での開催を予定している。年度当初の大変お忙しい時期ではあるが、
- 20 ご出席をよろしく願います。
- 21 ・また、第3回目に向けて、皆さまのご意見をお聞かせいただきながら、「骨子案」を作成
- 22 していきたいと考えている。
- 23 ・4月以降、個別にご意見をお伺いさせていただきたいと考えているので、よろしく願
- 24 いする。
- 25
- 26 (会長)
- 27 ・それでは、皆様よろしく願います。
- 28 ・ただいま事務局から報告があったとおり、次回の会議は5月29日(水)を予定している。
- 29 皆様お忙しい方ばかりですので、ご出席に協力いただくようよろしく願います。
- 30 ・それでは、これもちまして議事を終了させていただく。
- 31 ・委員の皆様には議事進行にご協力いただき感謝申し上げます。
- 32 ・それでは、進行を事務局にお返しする。
- 33
- 34 ■閉会
- 35
- 36 (司会)

- 1 ・それでは、これをもちまして第2回滋賀県産業振興審議会を終了させていただく。
- 2